

協働テーマ

通信制の生徒の自学・自習の支援や学習管理ツールなどを導入し、
生徒個々人に寄り添った学習環境を充実させたい！

■ 現場課題

課題詳細

通信制高校という性質上、全日制高校に比べて、生徒と対面で関われる頻度が少ないため、生徒一人ひとり学習状況の把握が難しいことが課題。
全日制高校と同様に教員が多忙な中で、これらの課題を解決しなければならない。

課題解決による
想定成果・効果

生徒にStudyplusアプリを用いて学習状況を記録しながらレポート作成を進めてもらうことで、生徒・教員ともに学習進捗・理解度の把握ができるようになる。これにより、教員の生徒に対する理解が従来より深まる。

■ プロジェクト概要

課題に対する
ソリューション

学習計画と学習記録をデジタル化し、教員がいつでもどこでも生徒の学習状況を把握し、コミュニケーションできるようにする。

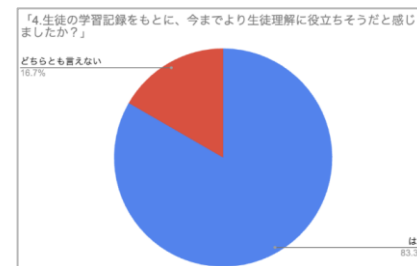
協働
プロジェクト
内容

通信制高校の生徒一人ひとりの学習記録をデジタル化することで、教員の学習支援の実施頻度を増やし、より生徒個々人に寄り添った指導を行えるかの検証を行った。具体的には、生徒毎に直近の学習傾向を分析し表示する機能（声かけアシスト機能）やデジタル配信された進捗表の活用により、教員が生徒の学習進捗や理解度を把握することで、生徒に対する理解が深められるかを実証前後で比較した。

成果

- 実施期間内で生徒の学習記録数は2671件、学習記録率は約37%。
- 約83%の教員が今までより生徒理解に役立ちそうだと感じ、個々に寄り添った指導が可能になることが期待される。
- 学校外の教材の学習記録により、生徒理解が深まったという意見があり、学校外活動を含めた生徒の学習履歴の可視化にも寄与することが期待される。

< アンケート結果 >



5. 【4ではいいと答えた方にお伺いします】 具体的にどのような場面で役立ちそうだと思うか、お教えてください。

現在、どのような学習に取り組んでいるのかはわかる。

生徒がどのくらい勉強しているのかを把握できる。

何の教科を何時間学習しているのか、レポートの学習状況と理解度が把握できる。

学習時間での頑張りの確認、面談

生徒の学習時間については把握できる。

< 声かけアシスト機能 サンプル画面 >



※分析結果が生徒ごとに表示されます